

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700100		
法人名	丸信産業株式会社		
事業所名	グループホーム光の家族		
所在地	北海道中川郡豊頃町中央新町50番地1		
自己評価作成日	平成26年11月25日	評価結果市町村受理日	平成27年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大切にしているのは、利用者の家族とのコミュニケーション。困ったことや、悩みには速やかに相談にのれるように心掛けています。細やかな対応ができるように、担当者制にしています。現状の施設設備で、地域に向けてどのようなサービスができるのかを考え、地域内での配食サービスや、共用型のディサービスを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0194700100-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊頃町で唯一のグループホームである「グループホーム光の家族」は、平屋建て1ユニットで運営されている。広い敷地の中に、前面ガラス張りとなっている事業所は開放感があり、居ながらに四季を眺める事が出来、夏などは近所の小学生が前庭で遊んでいる姿が見られる等、地域との繋がりが感じられる。代表者は行政や関係所管との連携を密にし、来年度(平成27年度)から当事業所のみに関わらず、町内住民のグループホーム入居者に対して補助金制度が施行される予定という行政と一体となった取り組みの成果を上げている。又、消防署とは災害時に消防署所有のバスを提供して貰い利用者の避難に活用させて頂く事になっている。昨年度から利用者担当制を導入し、より利用者とのコミュニケーションが取られる中で、希望や思いを受け止め、利用者の暮らしを豊かにする工夫となり、独自のアセスメントシートや個人記録に反映し、利用者を支える介護計画作成に繋げている。家族への報告や連絡も頻繁に取り合い、利用者、家族から何でも言って貰える関係を築いている。事業所では全国でも珍しい共用型通所介護を運営し、地域の高齢者福祉に貢献すると共に、地域に開かれた事業所を目指し取り組んでいる。事業所内は採光、温・湿度の調節に配慮しながら、利用者と職員がテーブルを囲み談笑して居る等、明るく和やかな雰囲気となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実施できていない。	開設時からの理念「かたよらない心・こだわらない心・とらわれない心・温かい心」を食堂に掲示し浸透に努めている他、職員間で話し合い、具体的に介護目標を定め方向性を一つにし、実践に取り組んでいる。	利用者を支える介護支援の基盤としての理念を職員間で検討も含めて共有しサービス向上に活用していく事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ハロウインの企画などを行い、少しずつではあるが地域との交流を行っている。	隣接して住居を設けている代表者が町内会に加入している他、町内会住民の職員もおり、良好な関係を築いている。運営推進会議を通し災害時の協力要請をしている他、事業所の行事を地域にお知らせする等交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、グループホームに町内会長、民生委員、役場福祉課課長、保健師、町内の特養老人ホームの施設長、社会福祉協議会に声を掛け、参加して頂き、報告と今後の対応についての意見を頂いている。	2か月に一度定期的に多彩なメンバーの参加を得て開催している。全家族に参加の案内をし、議事録も送付している。会議では、状況報告や、行事報告、事故報告、質疑応答等話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相互に連絡を取り合い、協力できている。	代表者は、行政と連携を密に取り、町と一緒に福祉政策を考え、高齢者福祉の向上に寄与しており、町内住民のグループホーム入居者支援の実現等成果に繋がっている。又、常に相談や情報交換に努め、サービス向上に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックについての説明を行い、言葉による拘束についての説明を行い、各職員がそれぞれ実践している。	職員は身体拘束の禁止事項を理解し、検討事項が起こった時には、原因となる利用者の思いを汲み取り、工夫して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉かけにも注意を払い言葉による拘束の排除に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	実施していない。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、グループホームで対応できること、できないことを説明させて頂き、協力していただけるようお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けているが、投書はない。	年に一度、家族と懇談会の機会を設けている他、毎月発行の事業所便りに担当者が近況を記し送付している。家族の面会は多く、面会時には様子を伝え、希望や要望を聞く機会としている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、全職員を対象としたミーティングを行い、各職員の意見を交換できる場としている。	代表者は毎月のミーティング時や、日常業務時に職員の提案や要望を聞く機会とし、運営に反映する様取り組んでいる。年度初めに人事考課を行い、就業意欲向上に繋げている。	今年度は職員の異動等があり、外部・内部研修の機会を持つ事が出来ない状況となっている。外部・内部研修の機会を確保し、更なるサービス向上に反映することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月に各職員と面接を行い、職員が出来ていること、今後頑張りたいことを話しあう場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部の研修に参加する機会がなかった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と職員の担当制にして、より親密に関われるように援助を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に、家族の要望、家庭で実践していたことなどを聞き取り、グループホームでも同様の援助が行えるように聞き取りをし、職員に周知するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あまり実施できていない。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	あまり実施できていない。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あまり実施できていない。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については、随時受け入れている。 受診時行った時など、知り合いに会ったときには会話の援助を行うようにしてる。	友人や知人が尋ねて来たり、受診時に顔見知りと出会った時には会話を楽しんだり、利用者のこれまでの関わりを大切にしたりした取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と食堂に集まり、他の利用者とテレビを観て過ごされている。相性の悪い利用者同士は、あいだに職員が入るようにしている。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実施できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	あまり実施できていない。	利用者担当制を取る事でより利用者とのコミュニケーションが取れるようになり、希望や思いの把握に繋げ、ミーティングで情報を共有し、思いの実現に向け取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	あまり実施できていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の一日の流れ、排泄のタイミングなどを記録に残し、職員が目を通すようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ある程度出来ている。	24時間シートを活用し、利用者や家族の様子、言葉を丁寧に記録する中で得られた気付きや、家族の希望、要望を反映した介護計画を作成し、定期的な見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施してことについての記載はあるが、その背景、その後の様子などの記録が少ないことが多く、情報を共有することが難しい状況である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施できていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実施できていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医(精神科、眼科、泌尿器科、皮膚科)への受診は、町外への受診となり、御家族が受診にいかれるため、職員が日常の記録を御家族に渡し、受診の参考にして頂いている。	町内のかかりつけ医への受診は事業所に対応しているが、町外の専門医への受診は家族にお願いしている。日頃の情報を記した手紙を提供して適切な医療が受けられる様配慮している。	

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はいないため、実施せず。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会毎に看護師に近況を聞いたり、退院についての相談を行っているが、情報交換や相談などの関係づくりは行っていない。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に備え、特養老人ホームへの入所申し込みもお願いしている。 終末期については、グループホームとして受け入れられる環境にないため実施していない。	入居時に事業所の出来る範囲と方針を説明している。状況に変化が生じた時には家族と話し合いの機会を持ち、意向に沿った対応に努めている。急変時の対応について消防署の協力が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今、勤務している職員は救命講習を受け、基本的な救命措置は学んでいるため、定期的に訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は年に2回、実施している。そのうち1回は夜間を想定し、職員1名で利用者を避難誘導する訓練を行っている。避難訓練後に消防署員からの講評をいただき、注意点などを話しあっている。水害については消防署と相談中である。地域との協力については運営推進会議などで話し合っている最中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できていない。	代表者、職員は利用者の尊厳を尊重し、プライバシーに配慮した言葉使いや対応を心がけている。記録類も適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員と相談しながら、日常の細やかなことを決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できていない。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できていない。	利用者の好みや状況、バランスに配慮した献立を専門職員が調理している。地元農家と契約し地元の野菜を使用した美味しい食事を提供し、後片付け等を職員と一緒にやっている。月に一度会議の時の昼食は利用者、職員でお弁当を取り、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に水分量をつけ、一日のトータルが1500cc以上になるように水分を促している。本人の嗜好に合わせ、飲みやすいものを進めたり、高カロリーにならないように注意をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員による声掛け、誘導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を確認しながらトイレに誘導しているが、失禁されていることもある。排泄の自立に向けた支援は行っていないが、日中はオムツを着用せずにトイレへ誘導するようにしている。	排泄チェック表を参考に一人ひとりのタイミングに合わせてさりげなく誘導し、日中はトイレでの排泄を支援している。寒天やお茶を利用し、スムーズな排泄になる様配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の確認をしながら、排便状況に合わせて、寒天の促しや、センナ茶の飲用を進めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否があった場合は無理強いせずに、次の日にずらすなどの対応は行っているが、利用者が入浴を楽しめているかは不明。	週2回の入浴支援を行っている。利用者の状況によっては2人介助での支援や、利用者の希望で同性介助での支援等、希望や要望に沿った対応となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	実施できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容に変更があれば、日誌、ケース記録に記載し、職員への周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木への水やりなどの役割分担をしている。		

グループホーム 光の家族

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて、担当職員と一緒に外出したり行えている。	事業所の敷地は2万㎡あり前面にも広大な敷地があり散歩や外気浴を楽しんでいる。そこに子供たちが遊びに来て会話をしている。遠方への外出は家族対応としているが、町内への外出等は状況を見ながら支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所内にておこずかいを預かり、外出時にはおこずかいから支払うようにして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを行ったり、花を飾ったりしている。	広い敷地に平屋建てからまつの板張りで屋根にはクローバーが植えられ、壁面はガラスの開口部が多くロジック風に作られている。室内は床下暖房で快適な温度調節がされている。居間には丸テーブルの食卓が二つあり全員で囲む食事は打ち解けた感じになり会話が進む作りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席については、気の合う方の近くになるように配置している。ソファの数が少なく、ゆっくりと過ごす場所が少ないため、利用者が不快に思うことがあるようである。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、各家庭で用意してもらった家具を配置している。また居室内の飾りつけは、御家族が持ってきた写真や職員からのカードなどを飾り、居心地が良くなるように工夫している。	居間には利用者が使っていた馴染みのベッドや箆箆等の家具、家族の写真や絵を飾りその人らしく居心地よく暮らせるように工夫している。夫婦で入居している利用者がおり隣り合わせで暮らせるよう配慮しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに自分で行かれる方のために壁に「トイレ」などの案内の紙を貼り、トイレまで迷わないようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 光の家族

作成日：平成 27年 1月 16日

市町村受理日：平成 27年 1月 19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営理念として「かたよらない心、こだわらない心、とらわれない心、あたたかい心」という理念があるが、具体性にかけている。	介護支援の基盤としての明確な介護理念を共有しサービスの向上へつなげていきたい。	介護支援する各自が理念を考え、ミーティングで話し合って決める	10ヶ月
2	11	人員の問題もあり、日常業務に時間をさかれ研修の機会が少なくなっている。	十勝管内で開催される研修に積極的に参加する。また、運営にかかる研修(認知症実践者研修など)にもできるだけ参加するようにする。	限られた人員で効率よくサービスの向上ができるよう、外部研修後にはミーティングの際に内部研修として報告し、報告者の知識の定着と職員間の情報共有をはかる。	直ちに継続的に
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。